

話のうやむや 不安から協力へ 副院長兼脳神経外科部長 鈴鹿 知直

病気の中には元通りに治らない病気・病態がある。治療後に薬も通院も要らない、完治できる病気の方が今は少ないかもしれない。脳卒中もその一つ。

「元通りにならない」という言葉を発すると、落胆や不安・怒りなどがわき上がってくる。何で・もっと他に・もっと早ければ・等、ひょっとすると医療不信につながるかもしれない。

その中でより可能性のある治療法を説明して、目標は下がるかもしれないが少しでも安定した未来に向かって一緒に闘っていく事になる。

今ではインフォームド・コンセントという言葉がよく当たり前になって、病状を聞き治療方法の選択肢とその結果予想の説明を受ける。患者の希望と結果予想との間に乖離があるかもしれない。でも出来る事と出来ない事をお互いに理解することからその後の協力が生まれる。

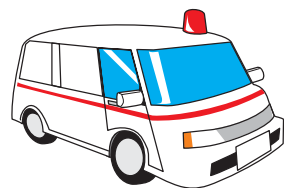
防災研修に参加した。被災した大勢の人が病院に来たときにどのように重症度を振り分けるか(トリアージと言って防災訓練の時によく行われる)といった話の前に、誰が連れてくるのかと。東海地震の被害者想定は浜松

市で重症3300人・中等症14600人、市内の救急車は21台。

同時に被災するのだからみんなで「助けて!」。平時であれば「市内の救急体制は万全」でも地震や大規模災害時には万全のほずがない。数字をみても救急隊はすべての被災者を同時には助けられない。「救急車は被災した救急現場すべてに行く事は出来ない。では誰が助けるのか、それは回りのみんなです!」としっかり宣言して、その上で回りのみんなは助けられる命をつなぐために、すべきことはなにかを事前に想定し訓練する。救急車はどこで動いてもらうか。3.11を契機に訓練内容も変わってきている。これも出来る事と出来ない事をお互いに理解しそこから組み立て開始。

全力を尽くしますや、出来る限りの事をしますは当然。でも出来る事と出来ない事をうやむやにするといつまでも期待をし、結果として不安が募り不信となるかもしれない。

不安・不信を払拭する一つに、意識のずれをただす事がある。



やさしい 疾患手帳

大腸癌の早期発見のために

一般・消化器外科副部長 代永 和秀



Profile プロフィール 氏名/代永 和秀

- 診療科…外科
役職…一般・消化器外科副部長
専門分野…消化器外科

食生活の欧米化にともない、日本の大腸癌は年々増加の一途をたどっています。食物繊維をしっかり摂取するなどの適切な食生活により、癌の発症の予防をしていくことはもちろん、早期に発見することが重要です。大腸癌は早期に発見されればほぼ100%治すことのできる癌で、癌の中でも予後の良い癌であると思われます。

では、どうすれば早期に発見することができるのでしょうか。

早期大腸癌では、ほとんど自覚症状はありません。癌が進行していくと、腫瘍からの出血による下血、腸管の中を閉塞することによる便秘、下痢や細い便、腸閉塞、おなかから触れることができるような腫瘍、腹痛などの自覚症状がでてきます。

自覚症状のない早期大腸癌の発見のためには、大腸内視鏡検査が最も有用です。しかしながら、大腸内視鏡検査は少ないながらも体へ負担がかかる検査です。どういった患者さんに大腸内視鏡検査を行えばよいのか、最も簡単で体への負担がない方

法で選別する方法が、大腸癌検診として広く行われている便検査です。これは便の中に血液が潜んでいないかを調べる検査です。痔があると陽性として出てしまうため、痔を持っている患者さんは内視鏡を受けなくてもいいのではと思われがちですが、その中に早期癌のサインが隠れている可能性があります。

積極的に検診を受け、一度でも検診で陽性結果が出た場合はきちんと大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。



患者満足度調査の結果報告

患者サービス推進委員会

平成23年11月に患者満足度調査を実施しましたので、この調査結果の一部をご報告させていただきます。ご協力をいただいた患者、ご家族の皆さんありがとうございました。

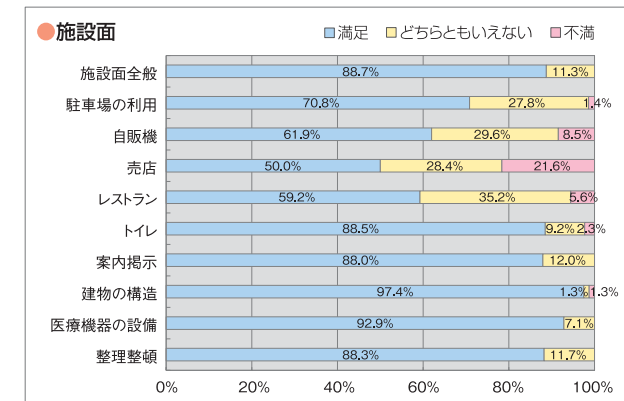
- 1.調査概要
●実施日/平成23年11月14日(月)~18日(金)
●対象者/入院・外来患者さん
●回答者数/【入院】93名(回答率37.2%) 【外来】387名(回答率64.5%)



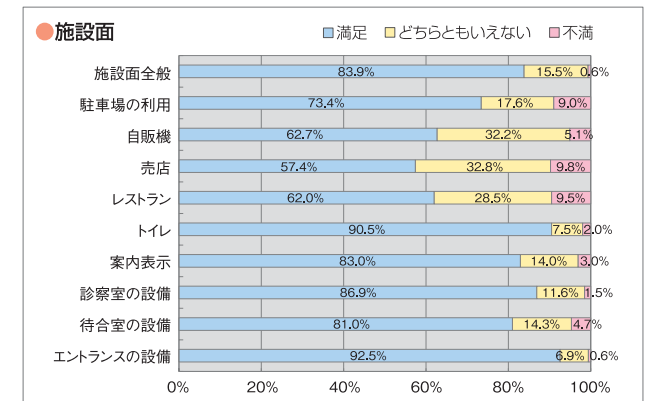
2.調査結果

Q. 当院の満足度をお答えください。

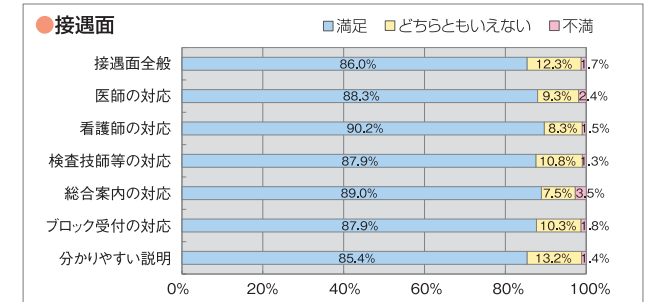
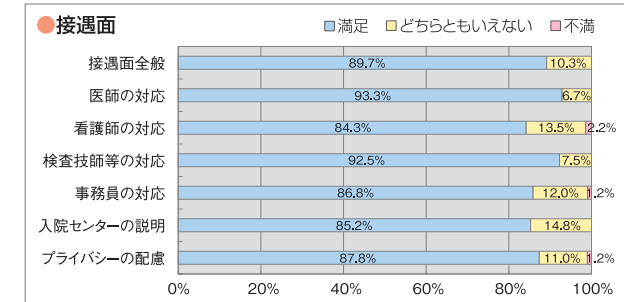
入院患者さん



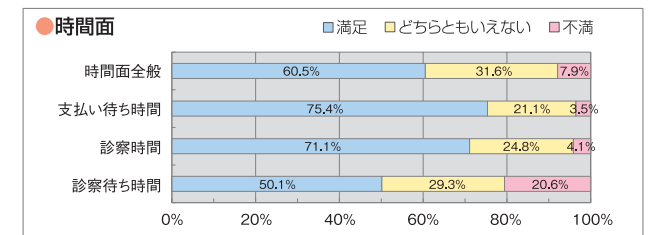
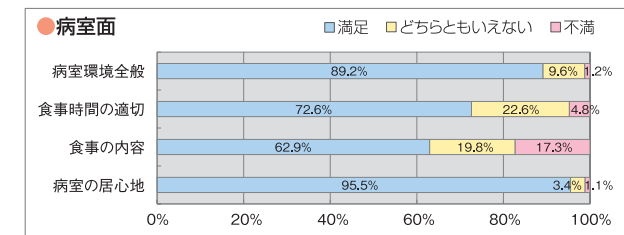
外来患者さん



施設面では、『売店』に不満を感じる方が多く、品揃えやお弁当などの在庫不足が要因と思われます。満足度の高い面では、『医療機器の設備』、『トイレ』などがその要因です。



接遇面では、どの項目も不満を感じる方が比較的少ない結果となりましたが、さらなる接遇向上に努めてまいります。



病室面では、『入院時の食事の内容』に不満が多く、食事内容でいくつかのご意見を頂いています。更に嗜好調査などで不満の内容を分析し、対応を検討してまいります。

時間面では、『外来診療の待ち時間』の不満が多く、今後、予約体制の見直しなどを含めて改善の必要性があると考えております。

今回、いただいた評価や励ましを基に一層のサービス向上に取り組むとともに、ご指摘があった事項については、改善に結びつけ、患者さんがご満足いただけるよう努力してまいります。
なお、日常お気づきのことは、『ご意見箱』等を通じてアドバイスをくださいますようお願いいたします。